



画：ブライアン・ウィリアムズ／「春眠」 曲面油彩画

第65期 中間報告書

平成30年7月1日 ▶ 平成30年12月31日

TOP MESSAGE

- 当中間期の概況と今後の取り組み

工事紹介

- 土木部門工事紹介
- 建築部門工事紹介

TOPICS

- 本社ロビーにCLTユニットブース設置
- 国土交通省近畿地方整備局
「国土交行政関係功労者表彰」ダブル受賞
- 「滋賀県優良工事表彰」ダブル受賞



株主のみなさまにおかれましては平素より、格別のご支援、ご愛顧を賜り、厚くお礼申しあげます。

さて、当社第65期第2四半期累計期間(平成30年7月1日から平成30年12月31日まで)の事業活動が終了いたしましたので、当中間期の業績、経営施策および今後の取り組みについてご報告させていただきます。

みなさまにおかれましては、変わらぬご支援を賜りますよう、心よりお願い申しあげます。

当中間期の業績は?

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、製造業の生産活動は米中貿易摩擦の影響が懸念される中、昨年秋の台風の影響はほぼ解消するとともに、在庫調整の進展もみられ、底堅い動きとなっております。需要面では一部の指標で伸び悩みがみられるものの、総じて堅調に推移しております。したがいまして、景気の現状は、緩やかな回復基調が続く中で、前向きな動きが増えております。

このような経済状況下、当社は現場力の強化、経費削減及びリスク管理の強化を重点的に取り組み、競争力を高める努力をしてまいりました。

この結果、当中間期の業績は下記「第2四半期累計期間財務ハイライト」のとおりとなりました。

当中間期の経営施策は?

当中間期におきましては、TOPICSで紹介しておりますとおり、平成30年7月に国土交通省近畿地方整備局「国土交通行政関係功労者表彰」を当社と社員がそれぞれ受賞、さらに10月には「滋賀県優良工事表彰」琵琶湖環境部門で「知事賞」、土木部門で「土木交通部長賞」を受賞いたしました。当社の地元である滋賀県でのインフラ整備に貢献させていただき受賞できたことは大変光栄であり、今後も社会インフラの安心・安全の確保に邁進してまいります。

また、平成30年12月には、栗東本社1階ロビーにCLT^{*}ユニットブースを設置いたしました。これは、写真や言葉だけではなかなかお伝えすることができないCLTの良さを、お客様に実感していただくために設けたものです。これまで、総CLTづくりの当社信楽本店をお客様にご覧いただきましたが、今回のブース設置でより気軽に身近にCLTを実感いただけたことになりました。このブース内に入っていただければ、木に囲まれた何とも言えない落ち着きと温かみのある空間を感じていただけると思います。

さらに当社では、合計4名(男性1名、女性3名)のベトナム人若手技術者を採用し、平成30年5月より順次入社いたしました。最初に入社した2名は、建築部門工事紹介に記載しておりますとおり、建築部門の工事現場でOJT^{*}研修に励んでおります。このようなOJT研修を行うことで、技術を学ぶだけではなく、言葉の上達が促進されるとともに日本の文化を学ぶよい機会と考えております。彼ら彼女らは、優秀であるだけでなく、仕事の知識を得ることにとても熱心かつ貪欲で、成長に大きな期待を寄せております。近い将来、当社の発展を支えてくれる人材になるものと確信しております。

今後の取り組みは?

建設業界におきましては、2020年の東京オリンピック開催後における公共工事の減少などが懸念されておりましたが、2025年に大阪・関西万博の開催が決定し、消費税増税などによる民間での需要停滞が懸念されるものの、引き続き公共工事は堅調に推移するものと予測されます。しかしながら、若年層の建設業界離れや少子化の影響もあり、建設従事者の人手不足が深刻な中、働き方改革の推進も必須の経営課題となり、引き続き厳しい経営環境は継続するものと思われます。

そこで、当社では今後の担い手となる人材の確保に積極的に取り組んでおり、先に紹介いたしましたベトナム人若手技術者の採用のみならず、今期より発足させました工事現場での書類作成等の間接業務をサポートする「建設ディレクターチーム」を活用し、作業の効率化を図り労働時間の短縮に努めてまいります。

また、今般注目されているi-Construction^{*}を積極的に推進し、若者や女性にとって魅力ある建設現場を目指してまいります。

さらに、2015年に国連で採択された、持続可能な開発目標であるSDGsは国際的な機運の中、当社の地元である滋賀県においても積極的に推進されており、あらゆる主体や分野において、その目標達成に向けた取り組みが求められております。当社におきましても、このような社会課題解決型の事業をいかにして展開していくかが、これから企業に求められる社会的使命と考えております。

このように、将来に向けて人材を確保するとともに、働きやすい職場環境の構築を行い、持続可能な社会を構築する事業に取り組むことで、創業100周年に向けて持続可能な企業経営を行っていく所存であります。

なお、利益配分につきましては、業績に応じた配分を基本とし、株主のみなさまへの安定的な利益還元と経営体質の強化を重要な経営方針の一つとして位置づけ、今後の事業展開などを勘案して決定することとしております。当期末の配当金につきましては、1株につき40円の配当を予想し、業績予想の必達に全社一丸となって邁進してまいります。

平成31年3月

株式会社 三東工業社
代表取締役社長 奥田 克実

※CLT

CLT(Cross Laminated Timber)とは、ひき材の繊維方向が層ごとに直交するよう重ねて接着したパネルのこと。

※OJT

「On The Job Training」の略語で、企業や組織の中で実務に取り組みながら行う育成方法のこと。

※i-Construction

建設現場における生産性を向上させ、魅力ある建設現場を目指す新しい取り組みであり、次の3つの取り組みを行うこと。

*ICT技術の全面的な活用

*規格の標準化

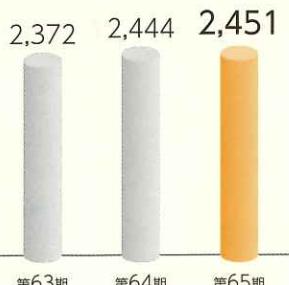
*施工時期の平準化

第2四半期累計期間財務ハイライト

売上高

2,451百万円

(単位：百万円)



営業利益

56百万円

(単位：百万円)



経常利益

67百万円

(単位：百万円)



1株当たり四半期純利益

59.80円

(単位：円)



工事紹介

土木部門

蒲生日野ライン管路更新工事

■発注者：滋賀県企業庁 ■工期：平成29年12月～平成30年11月 ■場所：滋賀県蒲生郡日野町石原地先
■概要：管路設工 施工延長 939.9m 不断水工法^{*}基・仕切弁室4箇所・空気弁室3箇所・防護工3箇所・舗装撤去・仮復旧工1式・路面覆工1式

これは水道管の管路更新工事でした。工期中は計画変更も多々あり大変な現場でしたが、不断水工法^{*}という特殊な工法で施工したことは大変貴重な経験となりました。また松尾工区を担当する当社社員とも相談しながら工事に携わることができ、楽しく勉強になることが多かったと思います。今後もこの経験を踏まえ、次に生かしていきたいと思います。

*不断水工法：既設管の水を止めることなく穴を開け、そこに分岐管を取り付け、新しく設置した管に水を送る工法のこと。



土木部門

日野ライン松尾工区管路更新工事

■発注者：滋賀県企業庁 ■工期：平成29年12月～平成31年3月 ■場所：滋賀県蒲生郡日野町松尾、河原、鳥居平地先
■概要：ダクタイル鉄管布設 施工延長 1,130.8m 排泥施設2箇所・仕切弁室、空気弁室12箇所

この現場は上記の当社蒲生日野ラインに近い場所での施工であったため、2つを同じ施工業者にすることで作業ロスをなくす工夫をしました。また、共同の事務所で作業することにより職員人数が増え、様々な考え方や意見が出る中、協議を重ねてより良いものが作されました。時期的には周辺の茶畠で茶摘が行われる季節と重なり、工程の調整に配慮をいたしました。地中には平行して既設管が多く埋設されており、試掘を念入りに行うなど入念な準備も必要となりました。結果的にはリスクを早期に発見し対処することで、工期を4ヶ月も短縮して無事故で完工することができました。施工中、台風の被害により現場周辺で多くの倒木がみつかりましたが、その撤去などを行い、地元から感謝の言葉をいただきたことも良い思い出となっております。



建築部門

(仮称)栗東くじら保育園新築工事

■発注者：社会福祉法人 くじら ■工期：平成30年10月～平成31年3月 ■場所：滋賀県栗東市上鈎下食田地先 ■設計監理：サム建築デザイン
■概要：鉄骨造 地上2階建 建築面積 535.88m² 延床面積 886.41m²

くじら保育園は長崎から始められた、全国規模で経営されている保育園です。中でも滋賀県内の園数が一番多く、今回県内で一番大きな施設となる物件を、当社の栗東本社近くで施工させていただきました。外壁はレンガ調で、内部は保育園らしいパステルカラーをふんだんに取り入れており、1階床は蓄熱式床暖房、園庭にはCLTを使用した自立式のフェンスを採用いただいております。施工中に県内の他のくじら保育園の園児を招き、様々な建築作業のミニ体験コーナーを設けた見学会を開いたところ、園児の歓声で賑わう楽しい時間となりました。特に理事長様には、このような見学会は初めてでとても楽しかったとのお言葉をいただき、大変嬉しく思います。また、この物件では昨年ベトナムから来日した新入社員2名が携わっております。監督職員として施工監理や安全管理を学んだり、建物内外のパースの製作や、建物色彩計画の補助をしております。この2名と共に、現在は、4月の開園時に園児の「クジラ級」の笑顔がみられることを楽しみに、順調に工事を進めております。



「工事に初めから関わっていたので、何もないところから建物の形になったことはとても感動しました。現場にいると工事の内容がよくわかります。仕事は大変なこともありますですが、皆さんが優しく教えて下さるので仕事がもっとできるようにこれからも頑張ります。」



チュ ティ トウ ハ

「この現場で、どの作業も集中して行なうことが大切だと知りました。暑くても寒くても、現場の人たちはいつも頑張っているので、私ももっと頑張ろうと思います。私はパースで絵を描いたり壁の色を付けたりしています。このパースも私が制作しましたが、現場で職人さんに細かいことを教えていただくことが役に立ち、とても勉強になります。」

エン アイントゥアン

●本社ロビーにCLTユニットブース設置

当社が平成30年11月に開催された「びわ湖環境ビジネスメッセ」に出展した際に製作した、CLTのユニットブースを栗東本社1階ロビーに設置いたしました。

このブースは、ご来社されたお客様との談話スペースとして活用しております。外側にはパンフレット等を設置する棚も設けており、ロビー全体に清新しいスギの香りが漂い、思わず深呼吸したくなるような空間となりました。温かみのある木材に触れ、良い香りに包まれることでリラックス効果があると、ご来社いただいたお客様にもご好評を得ております。



●国土交通省近畿地方整備局「国土交通行政関係功労者表彰」ダブル受賞

★国道161号柳ヶ崎地区歩道整備工事

標記の工事につきまして、「国土交通行政関係功労者表彰」において優良工事等施工者として当社、また優秀建設技術者として現場代理人の土木工事部 次長 杉本 修啓がそれぞれ表彰され、栄えあるダブル受賞となりました。施工場所の道路は中央線が時間帯で切り替わる、全国でも数箇所しか存在しないリバーシブルレーンのある3車線道路で、慢性的な交通渋滞が発生する非常に交通量の多い区間でした。沿道には商業施設やマンションが連坦しており、工事の影響による渋滞や通行者の安全確保など多くの課題がありました。また、工期は一日たりとも遅れることができない状況でしたが、現場代理人の積極的な対策提案、地元調整など万全な監理のもと無事に完工いたしました。安全な道路に整備することで地元の方々に喜んでいただけたことはもちろんですが、当社の技術や施工、携わる社員が高く評価されたことを大変嬉しく思います。

●「滋賀県優良工事表彰」ダブル受賞

★知事賞(琵琶湖環境部門)：琵琶湖流域下水道東北部木之本西幹線細江川道1工区管渠工事

★土木交通部長賞(土木部門)：国道307号補助道路整備工事

標記2件の工事につきまして、当社は昨年度に続き今年度もダブル受賞という栄誉に輝きました。受賞に至った理由といたしましては、工事中の危険が予測されたにもかかわらず、当社の過去の実績から積極的な防止策提案を行い事故なく遂行したこと。また、二次製品化の提案により工期を短縮するほか、地元への協力や行事に参加するなど、多方面から工事が順調に安全に進むよう、考慮したことが評価されました。琵琶湖の水を美しくするため、地域の交通の便を向上させるためお役に立てたことは大変喜ばしいことですが、県内においても当社の施工に対する姿勢が高く評価され、嬉しい受賞となりました。

■株主メモ

事業年度	毎年7月1日から翌年6月30日まで
定時株主総会	毎年9月
基準日	定時株主総会 每年6月30日 期末配当 每年6月30日 中間配当を行う場合 12月31日 その他必要ある場合はあらかじめ公告いたします。
株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人	大阪市中央区北浜四丁目5番33号
事務取扱場所	三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話照会先	電話 0120-782-031(フリーダイヤル)
インターネットホームページURL	https://www.smtb.jp/personal/agency/index.html
公告掲載新聞	日本経済新聞
上場金融商品取引所	東京証券取引所

株式に関する住所変更等のお手続きについてのご照会

証券会社の口座をご利用の株主様は、三井住友信託銀行株式会社ではお手続きができませんので取引証券会社へご照会ください。

証券会社の口座をご利用でない株主様は、上記電話照会先までご連絡ください。

■表紙絵画に寄せて



その昔、琵琶湖と湖東の平野をつなぎ、商いで栄えていた八幡堀が桜色に包まれる。用を経た運河沿いの蔵々が、静かに眠る田舟を見下ろす。以前の賑わいがあってこそ、今の静寂が心にしみる。

by Brian Williams

ブライアン・ウィリアムズ オフィシャルサイト
<http://www.brianwilliamsart.com>

